

# What ISIT?

ISIT : Institute of Systems &amp; Information Technologies/KYUSHU

## ISIT発ベンチャー! ~「株式会社システム・ジェイディー」~

(株)システム・ジェイディーのJDはJoint Development(共同研究開発)という意味がこめられています。「システムの高信頼化技術を共同研究開発で確立することにより、安全で安定した情報社会とし、Japanese Dreamを実現したい」と語る元ISIT研究員の伊達社長が、「子供たちが色々な可能性を伸ばしていくける情報社会」という夢の実現を目指して設立した「株式会社システム・ジェイディー」をご紹介します。

今日、システムLSIは情報家電や携帯電話等色々なものに普及しています。特に人命や個人情報に関わるような、非常に信頼性が重要なところに、システムLSIがこれから益々使われていくことが予想されます。このような中、システムLSIの信頼性を保証する技術を産学共同で確立し、それを事業化することが(株)システム・ジェイディーの事業コンセプトです。

現在、システムLSIは益々複雑化しており、その故障を検出するためのテストにおいても、現状の技術では、テストにかかる時間とその品質という両面で限界が出てきています。新しくブレイクスルーとなるテスト技術が必要であり、設計サイドからもこのようなニーズが高まっています。

例えば、今までのやり方では、ある程度設計が終った段階で付け焼刃的にテスト用の回路を附加して行うため、実際にテストを行うときに、十分な品質でテストできないという現象が起こっていました。

システム・ジェイディーでは、設計の初期の段階からテストを意識した設計を支援するCADの技術を、テストを専門とする大学の先生方と共同研究しており、それを事業化することによってシステムLSIの信頼性を上げるということを目指しています。



研究開発に勤しむ社員達

システムLSIのテストに特化したベンチャーということで、大学や公的研究所また民間研究機関との産学連携で独自のテスト技術を確立して、この分野の販路を拡大していくことを計画しています。

### <(株)システム・ジェイディーの概要>

- ◆沿 岸 2002年3月 会社設立
- 2002年7月 資本金を300万円増資し1300万円とする
- 2002年11月 福岡市企業立地促進制度の適用を受け  
福岡SRPセンタービル6階に事務所を開設
- ◆主な連携先 大 学: 九州大学、九州工業大学、福岡大学、奈良先端科学技術大学院大学、明治大学  
(外部組織) 公的研究所: (財)九州システム情報技術研究所(ISIT)、(財)福岡県産業・科学技術振興財團(ふくおかIST)  
民間研究機関: (株)半導体理工学研究センター(STARC)

- ◆主要事業 システムLSI用CADの開発及び販売  
システムLSI設計・検証・テストの受託

- ◆株 主 大学の先生、企業の技術者、個人投資家

## ベンチャ一起業家、伊達 博氏へインタビュー

伊達社長の思いに共鳴し、集まったスタッフと日々奮戦する伊達社長に、ベンチャーの起業についてお話しを伺いました。

### ベンチャーを立ち上げようと思ったきっかけは

知的クラスター創成事業やシリコンシーベルト構想等で福岡が盛り上がっていました。また、ソニー等大手のセットメーカーが福岡SRP地区に進出し、エンジニアを集めました。このようにシステムLSI設計技術研究の流れが、福岡SRP地区中心になってきたので、その波に乗ろうと思ったのが一つのきっかけです。

またISITの研究員の頃(1996年~2001年)、LSIチップの試作を手がけました。これは、LSIの仕様を決めるところから、回路へ落とし、更に出来上がったチップに故障がないかテストするところまで、システムLSIの設計開発を全部1人で一貫して行うという、他ではなかなか出来ない経験でした。この経験により、システムLSIの開発がどういうものか肌で感じることができ、独立して会社をやっても、何か事業をやるときにこの部分はあの程度のことだからという見込みみたいなものがつけることができる。これも一つの独立するきっかけになりました。

もうひとつ大きなことは、今もISITの研究員の方に継続していただいているのですが、1998年から始めたシステムLSIワーキンググループの活動があります。地元企業のエンジニアの方、大学の先生や学生等が集まって議論ができる、交流の場となっています。海外から著名な先生方が九州大学に見えられたときにはISITにお招きし講演をしていただくこともやっています。この交流の場で人の輪を広げることができ、ここで知り得た色々な方々からアドバイスをいただけたことも独立するきっかけになりました。

### 立上げから今までに助けになったものは

会社を1人で作るのは、大変なことです。しかしながら、私の場合、別の会社で取締役を経験し、会社というものがどういうものかよく知っている者と一緒に会社を立ち上げることをいたしました。例えば、会社登記をする場合、本を見れば一応のことはわかります。しかしながら、それを実際に一人で行うと、臨機応変に対応しなくてはならないことが発生し、パートナーである彼に何度も助けられました。そのときに書いていないことの重要性を認識しました。

お互いの能力を補完し合えるパートナーと一緒に仕事ができるというのが一番の助けになっています。

### ベンチャ一起業家として大学や行政、民間組織、またISITに期待すること

現在、大学や行政機関は広く門戸を開いており、起業家に対しても積極的に支援していくというスタンスです。よって、起業しようとする人がその気になれば、かなりのことを支援していただけるという認識です。

ISITに関しても非常にオープンな研究所ですので、起業を志している方に対して、例えばパートナーシップを結んでくれそうな会社さん等を紹介していただくことも可能だと思います。そういう意味で期待することと言えば、ニュートラルな立場で、公平な情報を広く提供していただくことです。



(株)システム・ジェイディー 代表取締役社長 伊達 博氏

### プロフィール

- 1961年 6月 福岡県生まれ
- 1987年 3月 九州大学大学院理学研究科修士課程修了
- 1987年 4月 (株)日立製作所入社、日立研究所勤務
- 1990年 10月 (財)新世代コンピュータ技術開発機構(通産省大プロ) 出向
- 1993年 12月 工学博士(九州大学)
- 1996年 4月 (財)九州システム情報技術研究所入所 第一研究室所属
- 1997年 4月 九州大学大学院数理学研究科 非常勤講師
- 1999年 5月 九州大学大学院システム情報科学研究科 助教授(客員)
- 2000年 10月 (株)半導体理工学研究センター 研究員(兼任)
- 2001年 4月 アーベル・システムズ(株) 技術部長
- 2002年 1月 (有)伊達システム情報技術研究所 代表取締役
- 2002年 3月 (株)システム・ジェイディー 代表取締役

### 伊達社長に続くベンチャ一起業家に対して アドバイス等をお聞かせください。

ISITにいた頃、西海岸のシリコンバレーを観察で廻った時、スタンフォード大学の先生方とベンチャーのあり方について議論する機会がありました。スタンフォードの優秀な学生さんの就職先は、主に現在成功しているベンチャーです。そこで社員として上場益をストックオプション等で得て、それを資金に今度は自分で会社を作って新しい事業を展開し、サクセストーリーを目指す。アメリカではそういう歴史が上手く廻って、ベンチャーが出てきています。

日本では誰かの背を見てベンチャーとしての色々なノウハウを蓄積することが難しいと感じています。どうしても自分の身近な一部の人の、例えば技術者であるとか、あるいは投資家や経営アドバイザーの意見等を聞いてしまって、結局自分の思った方向と違ったものになることがあります。やはり日本ではその辺を意識して動かないと難しいと思います。そういう意味で、是非私の会社を踏み台にして欲しいと思います。先に成功している人にアドバイスを受け、たくさんの方に師匠になっていたいということを実践していただきたいと思います。

ベンチャーの社長は、その会社の技術や製品が社会に出て行ったときにどういうハッピーな姿になっているか、そういう目指すべき具体的なものを常に持ち続けていけば、成功するのではないかと思っています。

「人間は、実現しない夢は見ない」といいます。最終イメージというものを忘れずに初志貫徹でやっていただきたいと思います。

# 養魚場のニーズを汲み入れビジネス化を狙う産学共同研究プロジェクト

稚魚から成魚に育てている養魚場のほとんどで、小さな稚魚の数は人手作業で数えざるを得ない状況です。このため、多くの養魚場が安価なシステムを導入し、この稚魚数を効率的に自動計測できないかと考えています。このようなニーズをビジネスチャンスと捉え、水中を泳ぐ稚魚を高速に画像計測できる装置を産学共同で研究開発するプロジェクトを実施しました。

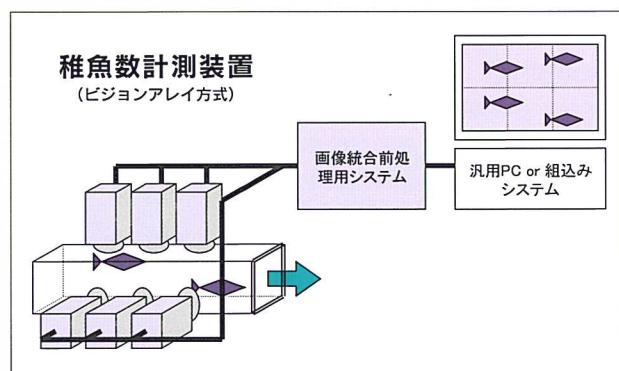
## プロジェクトのスタート時に考えたこと

稚魚数計測の自動化システムは過去にも開発事例はあります。が、養魚場に導入され、実用に耐えうる計測装置は出てきていませんでした。今回の産学共同研究プロジェクトでは、まず開発した計測装置が養魚場に受け入れられ、ビジネスとして成り立つことを研究開発の第一の目標に掲げスタートしました。

このため、新しい技術開発に専念するだけでなく、既にある先進的な技術シーズ(ロボット技術・動画像処理技術・システムLSI技術)を最大限に活用し、養魚場のニーズを汲み入れた安価で迅速な製品化を狙うこととしました。

## 稚魚数計測装置のしくみ

水中を自由に動き回る稚魚を計測するためには、CCDカメラやデジタルカメラを用い、高速かつ高精細な画像処理システムを構築する必要があります。このシステムを「ビジョンアレイ方式」と呼ぶしくみにより実現します。例えば、1台のカメラで捉えきれないくらいに速く稚魚が泳ぐ場合、予め稚魚の移動方向にカメラを多数設置し、あたかも1台のカメラで撮影した1枚の画像として、高速移動する稚魚を精細に撮影することができます。



このしくみを支える技術として、複数の入力画像をリアルタイムで統合画像にまとめる技術、また複数台のカメラをキャリブレーションするための技術、そして複数台のカメラの同期を制御する技術を開発しました。

この研究開発には、養魚場の自動化を進めているサンコー・テクノ(株)の技術だけでなく、通信システムに技術力のあるテクノシステム(株)や生体計測の画像処理ソフトウェアで実績を持つ(株)正興電機製作所の民間企業が保有する独自技術も生きています。また超高速画像計測に関する技術や知見を大分県産業科学技術センターおよび九州大学が提供しています。更にこの画像処理システムの小型化高性能化に欠かせないシステムLSI化について、九州大学並びにISITが保有する技術が提供されています。

## ビジネスにつなげる為には

このようなビジョンアレイ方式による稚魚数計測装置を製品化するためには、単に画像処理技術の新規性というだけでなく、養魚場という現場の状況把握やエンドユーザーである養魚事業者の意見の反映を欠かすことはできません。このため、実験に際しては、現場で養魚事業者と一致協力できる体制を整え、その要望に応じたシステム構成を試行錯誤しながら検討し、コストパフォーマンスを考慮して製品化の目途をつけるに至りました。

養魚場は日本全国で現在約1,000箇所あると言われています。この市場に対して稚魚数計測装置の販売を担当するのは(株)サンコー・テクノです。サンコー・テクノは、前述のとおり、従来から水産業における各種機器の販売を行っており、また水産業界に広範な人的ネットワークを有しているため、新たな販路開拓のステップを踏むことなく、円滑なビジネス展開が可能となります。



## 今後の課題

高速高解像度の画像計測装置に対する産業分野からの要請は大きく、稚魚数計測装置を実現したビジョンアレイ方式による画像処理システムについても、いずれ他社から競合製品が出てくることが予想されます。そのような他社との競争力を維持するためには、より高速な出入力インターフェースをもつデジタルカメラ等の新しい撮像機器やより高速なシステムLSIを取り入れて改良を加えることが必要になります。これと同時に、他製品との差別化を図るうえで、前にも増したエンドユーザーのニーズの汲み上げと迅速な製品化が必要になります。今回の産学の技術力を結集しビジネス化を重視したプロジェクトは、今後も有效地機能することと考えています。

今回のプロジェクト成功の要因は、大学等の研究機関や民間企業等のプロジェクトのメンバーどうしが目標を共有し、実質的な議論ができたところにあります。ISITは今後もこのような産学の橋渡し役を担うためのプロジェクトを推進し、産学の技術力を生かしたビジネス化を図っていきます。

# [ 平成15年度事業計画 ]

ISITはシステム情報技術に関する研究開発、内外関係機関との交流および協力、コンサルティング、情報の収集および提供、人材育成などを行うことにより、地域の情報関連企業の技術力・研究開発力の向上および情報科学・技術の発展と新文化の創造を図り、九州地域社会の発展に貢献することを目指しています。

地域に開かれた役に立つ研究所として、平成15年度は以下の事業計画に基づいて各種活動を展開してまいります。

## 1. 研究開発

### (1) 定常型研究

定常型研究はISITの基幹となる事業であり、有用性の高い研究を中長期的観点から推進していきます。

#### ◆ 第1研究室

- ・用途に応じて最適化されたプロセッサに関する研究開発
- ・システムLSIの設計を自動化する技術に関する研究開発
- ・システムLSIが自らを最適化していく技術に関する基礎研究

#### ◆ 第2研究室

- ・形式手法に基づくソフトウェア開発法に関する研究
- ・マルチメディア通信ネットワーク技術の実用化に関する研究開発
- ・ネットワークによる地域コミュニティ形成と社会活動支援に係わる研究開発

#### ◆ 第3研究室

- ・騒音下音声認識技術に関する研究開発
- ・実時間画像処理技術に関する研究開発
- ・ロボットを使った教育教材に関する研究
- ・生活支援に係わる情報技術の応用に関する研究開発

### (2) プロジェクト型研究・受託研究

地域の企業や大学との連携のもと、それぞれの研究開発資源を活かして国からの受託プロジェクトなどの推進や新たな提案を積極的に行って行きます。

### (3) 共同研究

大学やISITの研究シーズを活かして、地域の企業などのニーズに応えるため、有用性の高い共同研究を積極的に行って行きます。

- ・システムLSIワーキンググループ 等

## 2. 内外関係機関との交流・協力事業

最新の情報技術に関する講演会をさまざまな形態で行っています。国内ばかりでなく海外の研究者を招いての講演会や学術会議の誘致・開催など、時宜に即した各種イベントを実施していきます。

- (1) 定期交流会の開催(年6回)
- (2) 国内外研究機関との交流会等の開催
- (3) 交流研究員の受け入れ
- (4) 連携大学院の推進

## 3. コンサルティング

企業や行政などが抱える、技術的な問題に対してコンサルティングを行っています。また優れた技術をもつ企業に対して実用化に向けてのサポートやコーディネイトを手がけていきます。

- (1) 窓口相談
- (2) 電話、FAX、電子メールによる相談
- (3) 研究アドバイザーへの紹介

## 4. 情報の収集及び提供

- (1) 広報誌の発行(年4回、季刊)
- (2) 活動報告書の発行(年1回)
- (3) インターネットホームページによる情報提供
- (4) マルチメディア市民講座の開催

## 5. 人材育成

### (1) 企業技術者受入

- ・研究員等受入(定常研究従事研究員、交流研究員等)
- ・OJT研修(地域の情報関連企業から技術者等を受入れ)

### (2) 技術セミナーの開催(年3回)

- ・地域の情報関連企業・団体等が実施する研修への支援
- ・若手研究者の育成

## プロジェクト推進部 紹介



左から松田、黒川部長、富田

プロジェクト推進部は、戦略的研究開発を行なうプロジェクト型研究を中心にしてその計画、調整、運営管理、契約などを行なっています。

国などの公募情報収集及び地場企業や大学の技術シーズ・ニーズの把握に努めることにより、ふさわしい公募案件を掘り起こし、ISIT関係者や関係企業・大学から構成される共同研究体をコーディネイトしています。

企業や大学との連携により国の提案公募型プロジェクトを推進し成果を生み出すことは、技術開発推進、更には新規事業や雇用の創出など地域発展につながります。

プロジェクト推進部は、黒川部長(九州電力(株)から出向)と部員の富田((株)シティアスコムから出向)、松田((株)ビーシーシーから出向)の3名体制で運営されており、大きな使命感を持って業務に取組んでいます。

## Report 2

アジア太平洋地区のインターネット研究者337名が一堂に会して！

# APAN国際会議、福岡SRPにて開催さる

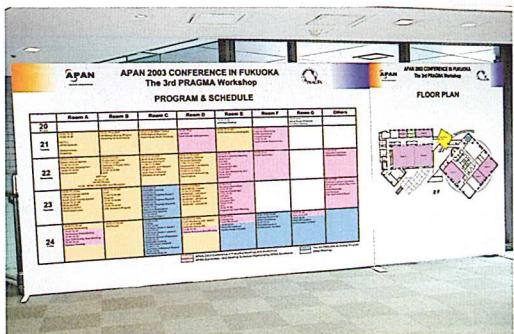
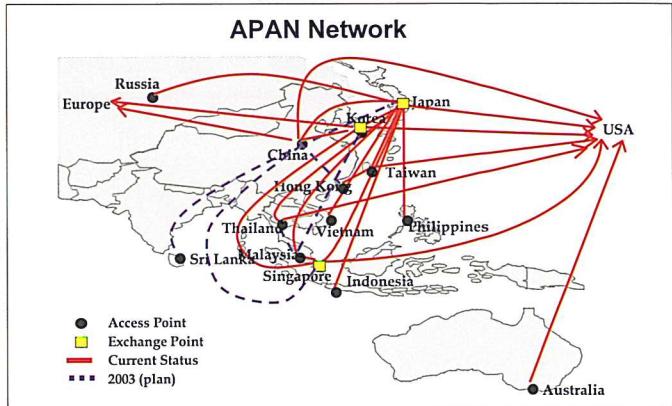
<1月21日～24日>

APAN(Asia Pacific Advanced Network; アジア太平洋高度研究情報ネットワーク)は、ネットワークテクノロジーの最新研究および高性能ブロードバンドアプリケーションの展開を促進するための会議です。アジア太平洋地域におけるインターネット研究者により、1996年8月に設立されました。

この会議は年2回のペースで過去12回開催され、うち5回が日本(大阪、筑波等)で開催されています。

今回、ISITは第二研究室が中心となり、APAN主催者の一員として、アジアに最も近いこの福岡市(福岡SRPセンタービル)での開催誘致ならびに運営に協力してきました。

期間中には、技術別(IPV6、デジタルビデオ等)や部門別(気象、農業等)に数々のワークショップやミーティング等が行われ、アジア太平洋地域における高度な次世代インターネットサービスの提供・研究および教育のための国際的な交流が深められました。



- 会議名 APAN2003福岡
- 会場 福岡ソフトリサーチパーク(SRP)センタービル[ももちキューブ]2階
- 主 催 (財)九州システム情報技術研究所(ISIT)、九州大学、九州ギガポッププロジェクト(QGPOP)、農林水産省研究ネットワーク(MAFFIN)、インターネット技術163委員会(ITRC)、独立行政法人 産業技術総合研究所(AIST)、独立行政法人 通信総合研究所(CRL)
- 協 賛 九州電力株式会社、シスコシステムズ株式会社
- 参加国 Japan, Korea, Thailand, China, US, Taiwan, Singapore, Malaysia, Vietnam, Philippines, Australia, Canada, Indonesia, SRI LANKA, Bangladesh, Libya, Iraq, Pakistan(以上18ヶ国)

## Report 3

### 第38回定期交流会

### 「Webサービスを支える技術的動向とビジネス活用事例」

日本アイ・ビー・エム株式会社 ソフトウェア事業部  
テクノロジー・エバンジェリスト 米持 幸寿 氏

<2月18日>



Webサービスとは、遠隔にあるそれぞれのコンピュータあるいはシステムが結びつき会話をを行う技術です。その特徴は「公開する」という考え方方あります。つまりそれは、インターネットを介しプラットフォームに関係なく誰とでも繋がりたい時に繋がることを意味します。このWebサービスの技術はビジネスを大きく変えると言われています。今は固定したビジネスパートナーのシステムと繋がり、例えば受発注

サービス(発注・受注・運送・決済等)がWeb上で行われています。これからはビジネスを始めようとした時、システムがネットワークから自律的にビジネスパートナーを探し出し、一つのビジネスプロセスを組み立てることができます。必要な時に必要なシステムと繋がるそんな世界が実現できます。

## Report 4

### 第17回技術セミナー

### 「インターネット・セキュリティ技術の最新動向」

～新しいセキュリティ技術、ダイナミック・プロテクションによるバーチャルパッケージ～

インターネットセキュリティシステムズ株式会社 大阪営業所 所長 西 恒徳 氏

<3月26日>



セキュリティ対策は、技術的なことばかりではなく、ネットワーク攻撃やセキュリティホールへの対処等日々の運用管理を適切に行なうことが重要です。対策に100%はありえないのですが、常に自社内に問題がないか監視し、問題があれば検知し対処することが必要です。そうすることによって、不正侵入を最小限に抑え、更に不正侵入による被害を最小限に抑えるという考え方でセキュリティ対策をとる必要があります。一方

でそのような運用管理を手作業で行なうと多大な労力とコストが必要になりますので、危険な攻撃や不正侵入を自動的にリアルタイムで検知、対処し、セキュリティ侵害から防御する仕組みが必要です。



## ISIT新賛助会員

平成14年10月以降  
ご加入の会員

### ■法人会員

株式会社日経広告 九州支社

### ■個人会員

飯田 武正



## ISIT賛助会員一覧

(平成15年3月末現在)

日頃より格別の御支援を賜り、御礼申し上げます。

### ■法人会員(64社)

(株)アクセス	西日本鉄道(株)
(財)アジア太平洋センター	西日本電信電話(株)
伊藤忠テクノサイエンス(株)	(株)日経広告九州支社
(株)インターネットイニシアティブ	日本システムスタディ(株)
(株)エクシーズ	日本電気(株)
(株)SRA西日本	(株)野村総合研究所
(株)エヌ・ティ・ティ・データ	(株)羽野製作所
エヌ・ティ・ティ・リース(株)	(株)日立製作所
(株)FCCテクノ	(株)日立超LSIシステムズ
(株)エル・エス・アイ	日立ハイブリットネットワーク(株)
(株)オーニシ	(株)ヒューコネクト
(株)オービック	(財)福岡観光コンベンションビューロー
(株)オリズン	(株)福岡機器製作所
九州通信ネットワーク(株)	(株)福岡銀行
九州電力(株)	福岡コミュニケーション放送(株)
九州日本電気ソフトウェア(株)	(株)福岡シティ銀行
日本電気通信システム(株)	(株)福岡ソフトリサーチパーク
九州ビジネス(株)	(社)福岡貿易会
パナソニックコミュニケーションズ(株)	福博綜合印刷(株)
九州旅客鉄道(株)	富士通(株)
(株)九電工	富士通デバイス(株)
行政システム九州(株)	松下電器産業(株)
ケア・ルートサービス(株)	三菱電機(株)
(株)コンピューター利用技術研究所	ミノルタオフィスシステム九州(株)
西部瓦斯(株)	(株)三森屋
(株)サンコー・テクノ	(株)ロジカルプロダクト
(株)シティアイスコム	(株)ロジック・リサーチ
(株)昭和電気研究所	
新日本製鐵(株)	
(株)正興電機製作所	合庭俊悟 飯田武正 岡部秀夫
(株)ソワコーポレーション	甲斐康司 金丸宗繼 岸田孝一
テクノシステム(株)	木下潔紀 桑山雅行 小宮宏道
(株)東芝	蘿田和人 是永哲也 近藤直史
(株)ドミックスコーポレーション	斎藤建一 砂田八郎 高倉治雄
西銀コンピューターサービス(株)	伊達 博 張 漢明 津田和範
(株)西日本銀行	中島一隆 中村敏宏 橋本 淳
(株)西日本高速印刷	堀内 勉 柳 善博

### ■個人会員(23名)

合庭俊悟	飯田武正	岡部秀夫
甲斐康司	金丸宗繼	岸田孝一
木下潔紀	桑山雅行	小宮宏道
蘿田和人	是永哲也	近藤直史
斎藤建一	砂田八郎	高倉治雄
伊達 博	張 漢明	津田和範
中島一隆	中村敏宏	橋本 淳
堀内 勉	柳 善博	



## 賛助会員ご加入のおすすめ

ISITの設立目的に賛同していただける方(団体、企業、個人等)に賛助会員としてご加入いただいています。

### ■賛助会員の特典

- 1 ISITが主催する定期交流会(年6回)、技術セミナー(年3回)等に無料で参加できます。
- 2 ISITが行う情報技術に関する技術コンサルティングを割引料金で利用できます。
- 3 ISITが発行する広報誌「What IS IT ?」(年4回)や研究報告書等の刊行物の配布が受けられます。
- 4 ISITが保管する情報技術関係資料等の閲覧ができます。

### ■賛助会費(年会費)

法人会員 1口 6万円 個人会員 1口 1万円

入会についてのお問い合わせは総務部までお願ひいたします。

Tel:092-852-3450 担当:加茂、千代島



## ご来訪の皆さま

平成15年3月31日  
現在 (敬称略)

貴重な情報交換、誠にありがとうございました。

### 平成15年1月以降の主なご来訪者[一覧]

1/10	国土交通省(都市・地域整備局)	3名
1/26	環黄海人材交流調査団(培材大学)	4名
1/28	国立情報処理研究所(ドイツ)	3名
2/06	韓国企業経営者	11名
2/13	(財)ハイバーネットワーク社会研究所	2名
3/06	熊本大学工学部数理情報システム工学科	51名
3/10	(財)釜山情報産業振興院	3名
3/13	岩手県地域振興部/地域連携研究センター	3名

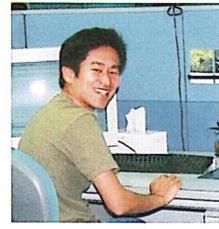


## 新スタッフ紹介

(3月末現在、ISIT総勢55名)

所 属 役 職 氏 名

第1研究室 研究員 首藤 真



はじめまして。首藤真と申します。2003年2月10日より第一研究室研究員として勤務しております。産学官の協調のもと、福岡ソフトリサーチパークの中核的研究機関として、情報産業の振興と経済社会の発展に資する九州システム情報技術研究所に研究員として迎えて頂いたことを大変感謝しております。

以前は、宮崎大学大学院の学生として高速算術演算回路、多值論理回路の設計に関する研究を行っていました。福岡に住むことはもちろん初めてですし、研究所に勤務するのも初めてです。これまで宮崎大学の中で研究してきた私にはまだまだ不慣れな点が多く、第一研究室室長村上先生をはじめ、他のスタッフの方々に御指導いただく毎日です。

本研究所における新たなテーマ“動的システム最適化技術の応用、ならびに、当技術を実装したシステムLSIの開発”は、私にとっては大きすぎるくらいの研究上のチャレンジであり足がかりだと思います。しかし、新しいことに飛び込む勇気、始めたことは最後までやり通す根気、知らないことを知ろうとする熱意を強く持って一步一歩前進していきたいと思っています。皆様方のご指導をいただきながら、充実した研究活動が行えるよう、たくさんのものを吸収していきたいと思っています。いつでも気軽にお声を掛けて下さい。よろしくお願いいたします。

### ●今後の予定

◆第40回定期交流会 6月17日  
「企業の知的財産戦略～産学連携の視点から～」

◆第18回技術セミナー 7月15日  
「大企業の技術を生かしたスピノフベンチャー育成の実際」(仮題)

### ●発 行

財団法人 九州システム情報技術研究所 ISIT

Institute of Systems & Information Technologies/KYUSHU

〒814-0001

福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707(福岡SRPセンタービル(ももちキューブ)7F)  
Fukuoka SRP Center Building (Mochi Cube) 7F 2-1-22, Mochihama, Sawara-ku,  
Fukuoka City 814-0001

TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455

URL : <http://www.isit.or.jp> E-mail : [koryu@isit.or.jp](mailto:koryu@isit.or.jp)

印刷：(株)ドミックスコーポレーション

